

サッカーの遠せい

小坂井西小・5 伊藤 千紘

今年の夏休みに、ぼくは初めてサッカークラブで遠せいに行きました。四、五、六年の三年間いっしょで、山梨県までバスに乗って行きました。試合グラウンドに着くと、もう他のチームはグラウンドに来ていて、練習や試合をしていました。ぼくたちは荷物を置いて、お弁当を食べたら、みんなで練習を始めました。

ぼくと大次郎さんはキーパーなので、フィールドプレーヤーとは別メニューで練習をしました。まず六年生が試合をして、それが終わるとぼくたちの番になりました。

前半のキーパーは大次郎さんでした。ぼくはベンチで応援をしました。試合が始まりしばらくすると、相手チームがドリブルをして、シュートを決めて先制点を入れました。そこからさらに点数を入れられて、前半が終了しました。後半はぼくがキーパーでした。相手チームはさらに点数を入れてきて、試合が終わった時には点差がかなりありました。ぼくは、

「相手チーム、強かったなあ。」
と思いましたが、その後も、五試合くらいやって、勝った試合もあつたけど、負けた試合のほうが多かったです。

一日目が終わり、夕飯を食べて風呂に入り、みんなとトランプをして過ごしました。ねる時間になって少しきん張りました。理由はいつもは話をしない人たちといっしょにとまることになったからで

す。

ねむれるか心配だったけど、二日目の朝は、すっきり目覚めることができました。朝、みんなで散歩に行きました。本栖湖に行きました。湖は大きかったです。朝ご飯を食べ、練習の準備をしました。グラウンドに着くと、ぼくと大次郎さんとコーチで、試合に備えてキーパー練習をしました。コーチが投げるボールを、ノーバンでキャッチする練習をしました。

試合をすると、たくさんシュートを防ぐことができませんでした。ともうれしかったです。試合前の練習の成果が出せたな、と思いました。だけど、点を入れられたものもあるので、もっとシュートを防げるようになります。でも、うれしかったことがあります。それは、試合が終わってベンチにもどるときに、相手チームの人が、ぼくに向かって、

「ナイスキーパー。」
と言ってくれたことです。その後、ぼくたちのチームの六年対五年の試合をやつて、五年は負けてしまいました。

三日目は特別コーチが来て、トラップやドリブル、シュートの仕方を教えてくれました。みんながシュート練習をしているときに、ぼくと大次郎さんはゴールの方でキーパー練習をしました。一番良かったのは、いいプレーをすると他のチームの人とお互いに、

「ナイスキーパー。」
と言ひ合えたことです。それにその人たちと仲良くなり、初対面だけいろいろな話をして、相手キーパーのひみつ話まで聞きました。三日間の遠せいが終わって、バスで帰りました。チョコのおかしやまんじゅう、キーホルダーをお土産に買って家に帰ったら、家族

みんなが喜んでくれました。ぼくは家に帰って、自分で水とうを洗いました。その時に、

「ぼくはこの水とうだけを洗っているけど、お母さんは毎日、この何倍もの食器を洗っているんだな。」

と気がついて、
「お母さんてすごいなあ。」
と思いました。